

## 【地域の概要】

- 美濃市上野地区は、美濃市の北西部に位置している地域である。
- 上野地区のほとんどが水田であり、耕地面積約11haである。
- 地権者の総数は73名であり、地元53名、地元以外に20名がいる。
- そのうち、地元での耕作者は10名である。

## ①取組開始前の状況や課題

## 地域の課題

○昨年度、人・農地プランの実質化を行った地域であるが、一部、不耕作地もあり、耕作者に後継者がほとんどおらず、今後に関しての心配があった。

しかし、コロナ禍でもあり、大人数での会議も開催できず、地域の人々や地権者が今後の農地に関してどうしていくかが、課題となっていた。



上野地区圃場

## ②取組内容

## アンケート実施（令和3年5月）

- そこで、地域の農業委員が主導して、地域の問題解決のために独自のアンケートを作成し、地域の耕作者と協力して、訪問や郵送によるアンケート活動を行った。
- アンケート結果は、地域の農業委員が集計し、結果は各地権者に配布した。
- 結果をもとに、農業委員・耕作者らが集まり、更なる人・農地プランの見直しの話合いを行った。



実質化プラン見直しの話合い

## ③今後の展開と方向性

## アンケートから見た地権者の声

○上野地区のおおむね7割くらいの方は、地域の農業をまもり、里山の美しい風景を願っている。

## プランを実行に移し集積へ

○今後は地権者だけではなく、地域での意見をまとめて、集積活動の推進を進めていく。

## 担い手の育成

○一人ではあるが、この地で農業をしたいという若い担い手が現れた。



**委員活動に  
ひと工夫**

担い手も現れ、地区の耕地面積11分のうち5・7割あった不耕作地は、1割ほどに減少した。

地域にあった項目

岐阜県美濃市の北西部、中山間地域に位置する上野地区。同市農業委員会の農業委員・太田裕夫さん（75）は、独自の「牧穂クラブ」で活動。2020年7月から、農業の詳細なアンケートを作成し、地域の意向を把握すること、貸し手と借り手のスムーズなマッチングを進めている。新たな

岐阜 美濃市農業委員会

独自アンケートで意向把握

うちに手を打てないか考えた。まず、地域の人ができる考えているか知ろうとアンケート調査を計画。他地区のアンケートも参考にしたが、条件のいい地域のものが多く、牧穂クラブのメンバーとも相談し、地域の実情にあった独自の項目を設けた。

アンケートの項目は、①耕作水田がある人の現状②貸付水田のある人の現状③不耕作水田のある人の現状④地区の農地の今後について――に大別し、地権者の状況に応じて設問を変える工夫をした。具体的には「地区外の人がまとまった面積で農業をしたいとなったとき、貸すか」など、担い手のいない厳しい状況を認識した上での質問を設定した。選択肢も①不耕作地なら貸す②他に貸していたら貸さない③他に貸しても良い――など具体性をもたせた。

アンケートの回収率は93%にも上った。昨年5月にアンケートを73人の地権者に配布し、地区に住む53人には、牧穂クラブのメンバーにも協力してもらいながら、1軒1軒戸別訪問。「直接対話の中で感じ取れることを大切に」と太田さん。地区外の地権者20人には郵送し、住所がわからない人は親戚筋から地道に粘り強く情報をたどり、回収にこぎつけた。

アンケートの結果からは、不耕作地の増加が懸念される内容が浮き彫り

になった一方で、「農業・農地を守って里山の美しい風景を残したい」と多くの人が思っていることがわかった。太田さんは「聞き取る中で多かったのが、地代は安いから、草刈りだけでもしてほしいとの声」だと振り返る。アンケート結果からも他地区の担い手であっても貸したいとの意向が多かった。

田滑にマッチング

そんな中、同地区で6割耕作していた他地区の担い手から、面積を増やしたいと相談があ



地権者を1軒1軒回った牧穂クラブのメンバー。左端が太田さん

チゴを中心とした作付けを準備している。貸したい意向の農地がわかったため、スムーズなマッチングにつながったという。

太田さんは「今後も地域で協力しながら、美しい里山風景を残していきたい。そのためには、定期的に話し合いの場を設けるなど貸し手と借り手が協力しあえる関係づくりが大切だ」と話す。